第十八講・短歌・俳句

◇短歌の重要事項

① 五・七・五・七・七の音数を基本の形式とし、音数がこれより多いものを**字余り**、少ないものを**字足らず**といいます。

② 一首（短歌の数え方）の中で意味が大きく切れるところを**句切れ**といいます。

◇俳句の重要事項

① 五・七・五の音数を基本の形式とし、音数がこれより多いものを**字余り**、少ないものを**字足らず**といいます。

② 俳句には、**季語**（季題）といって、季節を示すことばを一つ入れるのが決まりとなっています。

春…桜・うぐいす・卒業
夏…あじさい・せみ・プール
秋…柿・ばった・運動会
冬…大根・ふぐ・スケート

③ 句の中で意味が切れ、感動の中心となるところに、**切れ字**（「や・かな・けり」など）が使われることがあります。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　いちはつの花咲きいでて我が目には
　　今年ばかりの春ゆかんとす
　　　　正岡子規

B　白鳥は哀しからずや空の青
　　海のあをにも染まずただよふ
　　　　若山牧水

C　清水へ祇園をよぎる桜月夜
　　こよひ逢ふ人みなうつくしき
　　　　与謝野晶子

問一　Aの短歌の中心はどんなことにありますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　明日をもしれぬ病にふせっている悲しみ
イ　日々自然の美しさをめでることができることへの感謝
ウ　いつにもまして美しい季節をむかえられた喜び
エ　いろいろなことを見落としてきたことへの怒り

問二　Bの短歌に「哀しからずや」とありますが、どんなことを「かなしくはないのだろうか」といっているかを述べた次の（　）にあてはまることばをあとから選び、記号で答えなさい。

白鳥が空の青色にも海の青色にも染まらず（　）ただよっていること

ア　自由に　イ　孤独に
ウ　のどかに　エ　一心に

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　Ｃの短歌は何句切れの短歌ですか。

問四　Ｃの短歌でよまれている作者の心情（しんじょう）として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　月の光と古都の優美（ゆうび）な雰囲気（ふんいき）にうっとりとなっている。

イ　不慣（ふな）れな土地にひとりでいるので心細くなっている。

ウ　自分の美しさをほめられていい気分になっている。

エ　好きな人に逢えてうれしさがこみあげてきている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ａ　ゆく秋の大和（やまと）の国の薬師寺（やくしじ）の
　　塔（とう）の上なる一ひらの雲
　　　　　　　　　　　　佐佐木信綱（ささきのぶつな）

Ｂ　たは（わ）むれに母を背負（せお）ひ（い）て
　　そのあまり軽（かろ）きに泣きて
　　三歩あゆまず
　　　　　　　　　　　　石川啄木（いしかわたくぼく）

Ｃ　向日葵（ひまわり）は金の油を身にあびて
　　ゆらりと高し日のちひ（い）ささよ
　　　　　　　　　　　　前田夕暮（まえだゆうぐれ）

問一　Ａの短歌に用いられている表現技法（ひょうげんぎほう）を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　擬人法（ぎじんほう）　**イ**　倒置法（とうちほう）
ウ　反復法（はんぷくほう）　**エ**　体言止め

問二　Ｂの短歌の「三歩あゆまず」とは、三歩も歩けなかったという意味ですが、なぜ三歩も歩けなかったのですか。心情（しんじょう）も含（ふく）めて答えなさい。

問三　Ｃの短歌の「金の油」は何をたとえたものですか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　春風や闘志いだきて丘に立つ　高浜虚子

B　滝落ちて群青世界とどろけり　水原秋桜子

C　咳の子のなぞなぞあそびきりもなや　中村汀女

D　雪とけて村いっぱいの子供かな　小林一茶

問一　A〜Dの俳句によまれている季節をそれぞれ答えなさい。

A［　］　B［　］　C［　］　D［　］

問二　A〜Dのそれぞれの俳句から感じられることとして最もよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　にぎやかさ　**イ**　雄大さ
ウ　愛情　**エ**　希望

A［　］　B［　］　C［　］　D［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次の俳句（はいく）を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　五月雨（さみだれ）や大河（たいが）を前に家二軒（にけん）　　与謝蕪村（よさぶそん）

B　あはれ（わ）子の夜寒（よさむ）の床（とこ）の引けば寄（よ）る　　中村汀女（なかむらていじょ）

C　乳母車（うばぐるま）揺（ゆ）るゝ（る）りんごを持ちつづけ　　中村草田男（なかむらくさたお）

D　花散るや耳ふって馬のおとなしき　　村上鬼城（むらかみきじょう）

問一　A～Dの俳句の(1)季語と(2)季節を、それぞれ書きなさい。

A　(1)［　　　　］　(2)［　　］

B　(1)［　　　　］　(2)［　　］

C　(1)［　　　　］　(2)［　　］

D　(1)［　　　　］　(2)［　　］

問二　次のそれぞれの説明に合う俳句をA～Dから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)　子どもに対する母親の愛情（あいじょう）が句の中心にある。

(2)　生命の力強さとみずみずしさが感じられる。

(3)　自然のすさまじさと人工物のこころもとなさが対比（たいひ）されている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(4) のどかな季節の一光景が童画のように描(えが)かれている。

(1) □

(2) □

(3) □

(4) □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　短歌・俳句

一題目

問一　ア

問二　イ

問三　三句切れ

問四　ア

二題目

問一　エ

問二　(例)背負った母があまりにも軽かったことで悲しくなったから。

問三　(例)日光(別解　太陽の光)

三題目

問一

A　春

B　夏

C　冬

D　春

問二

A　エ

B　イ

C　ウ

D　ア

四題目

問一

A　(1)　五月雨　(2)　夏

B　(1)　夜寒　(2)　秋

C　(1)　りんご　(2)　秋

D　(1)　花散る　(2)　春

問二

(1)　B

(2)　C

(3)　A

(4)　D

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。